

タイル面及び目地の防汚・保護透明塗膜

セブンS

SS-Y工法

施工要領書

2020年 11 月改訂版



**Seven Chemical**  
**株式会社 セブンケミカル**

## 下 地 処 理

### □ 下地ごしらえ

- ① タイルの剥離部、浮き箇所、ひび割れ箇所は、事前に張り替え又は、エポキシ注入・シーリング材充填などの補修をしてください。
- ② 深目地の場合、目地底入り隅、タイル小口へ刷毛で丁寧に各工程を塗り付け、十分に造膜をさせてください。または、浅目地に埋め戻した場合は、十分に目地モルタルを乾燥後、施工してください。
- ③ シーリング材打ち替え後、シーリング材の上へは養生するか、見切り、塗装は避けてください。  
やむを得ず塗装する場合、現在まで不具合の少ない2成分型アクリルウレタンシーリング材を薦めております。  
PCa 部材、ALCパネル、押し出し成形版では、2成分型アクリルウレタンシーリング材上に塗った後に不具合報告が有りましたので、予め、ポリサルファイドシーリング材、変成シリコーンシーリング材等に打ち替え、塗装は避けてください。極稀にシーリング材の挙動が大きな部分では塗膜の皺やひび割れの発生する場合があります。

(ガラスブロック面などへのご注意)

シリコーンシーリング材を打ち込まれている場合は、その上に塗装は出来ません。

ガラスブロック面や、目地モルタルへのシリコーンシーリングによる汚染を十分にクリーニングし、付着阻害の無いようにしてから塗装してください。

「セブンS」を塗装する場合には、ポリイソブチレン系シーリング材に打ち替え、ご利用ください。

- ④ ポリサルファイドシーリング材、変成シリコーンシーリング材の場合、シーリング材の上へは養生し、「セブンS」を塗らないでください。やむを得ずシーリング材の上に施工する場合は、次善の策として滲み止めプライマー、「セブンファンデクリヤー I」を施工前日までにシーリング材上へ、刷毛や、筆で塗り付けてください。
- ⑤ 入り隅部へは、2成分型アクリルウレタンを三角に打ち、面取りしてから施工すると防水効果が上がります。
- ⑥ シーリング材用プライマーやエポキシ注入材が、タイル表面に付着した箇所には経時後見苦しい黄変ムラとなることがあるので、表面に残らぬよう処理してください。
- ⑦ ワックスや油脂などがタイル面に付着している場合は、洗剤を使用し、十分水洗いを行うか、研磨紙ずり及び、シンナー拭き等により、除去してください。
- ⑧ 目地部、ひび割れ部などからの白華物(エフロレッセンス)は、硬質ブラシやスクレーパー、ヘラなどで、できるだけ除去し、弱酸性液(希塩酸、しゅう酸等)で洗浄除去後、十分水洗乾燥する。尚、酸で目地モルタル、タイル裏面モルタル、及びその他のセメントモルタル、コンクリート面の劣化、強度低下を生じさせないように、水洗い除去を充分行うなど注意し施工してください。
- ⑨ かびや藻などの微生物汚染を生じている場合は、予め、カビ取り材、アルコール液で殺菌処理してください。
- ⑩ 塵埃や付着物異物などの汚染物は、セブクリーナー等を用い、汚れを除去した後、十分に高圧水洗浄してください。
- ⑪ 水洗後のタイル面は十分乾燥させてください。

セブンス（SS-Y工法）の標準工程

□〔中塗りの塗付方法〕 1回目：標準目砂骨ローラー

工 程	使用材料	希 釈 (重量比%)	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )	工程時間 (時間)	施 工 方 法
1 下塗り(1~2回)	セブンスシーラー 又は セブンスネオシーラー	無希釈	0.15 ~0.2	3以上 24以内	中毛ウールローラー
2 中塗り(1)	セブンスSS	水道水 (1~5)	0.4 ~0.7	3以上 168以内	標準目砂骨ローラー
3 中塗り(2)			0.2 ~0.3	16以上 168以内	標準目砂骨ローラー又は 中毛ウールローラー
4 上塗り (艶有/半艶)※	セブンスストップ M# 30	無希釈	0.12 ~0.15	2以上 8以内	中毛ウールローラー
5 上塗り (艶有/半艶)※			0.12 ~0.15	16以上 168以内	
6 低汚染仕上げ	セブンスヨゴレガード	無希釈	0.03 ~0.05	24以上 (最終養生)	温風低圧塗装機/ エアスプレーガン等

※光沢の低い仕上げは、「艶消」もご選択いただけますが、「半艶」を推奨しています。

塗装についての注意事項

はじめに、目地モルタルがタイル表面より段々深くなってくるとローラーが目地部を通るときにカタカタと落ち込み、泡含み、垂れ、溜まりから塗膜の白濁や鼻垂れなど乾燥後見苦しくなります。また、塗材の塗付け不足などから付着不具合の要因となる場合があります。そこで、目地モルタルが深くなり塗り辛いときには、刷毛で余分な垂れ、溜まりの除去や、ローラーで届かなかったタイル小口、見上げ部や入隅へ各塗材の配り塗りをしてください。

- ① 下地が ALC パネル、押し出し成形版、及び斜壁部への中塗りは、1kg/m<sup>2</sup>を基準にしてください。
- ② 斜壁部への塗装は、セブンスウォール(外壁防水材アクリルゴム系)着色仕上げもご検討ください。
- ③ タイルが接地面から張られている場合、接地面から10cm程、塗装は避けてください。  
花壇や擁壁など裏面からの湿気供給が予想される部分への塗装は避けてください。
- ④ セブンス塗装では、塗装しない取り合い側からの浸水による不具合が無いようにしてください。  
面の出隅で縁切りせず、躯体の厚み分以上折り返し塗りし、タイル目地まで塗り縁切りしてください。
- ⑤ 笠木部天端などタイル露出部へはウレタン防水又は、セブンスウォールなどで防水処置してください。
- ⑥ 陶器質や無釉薬タイル、擬石調やレンガ等、吸水性の高い素地の場合、シーラーは乾燥後 2 回目を追いかけて塗りし、当日中に濡れ色を均一にしてください。
- ⑦ シーラー塗布後、目地モルタルの吸い込みが大きく濡れムラ部分は、乾燥後、当日中に追いかけて増し塗りし、目地モルタルを均一に濡れ色にしてください。(下地の状態により、塗付け量に差異を生じることがあります。)
- ⑧ セブンスSS中塗りに水道水 1~5% (140~700 cc) 程を加え、棒などで気泡が入らぬようにのの字を書くように攪拌しよく馴染ませてからローラーをお使いください。セブンスSS(中塗り)2回で最低 0.6kg/m<sup>2</sup> 塗り切れない場合、塗りきるまで重ね塗りしてください。
- ⑨ セブンスSS中塗りは、ローラーの運びをゆっくり配り塗りすることで気泡を含みづらくします。一度に腕を伸ばし、しごき塗りすると、造膜不均一や造膜不足、気泡が入り易くなり、塗膜の白ぼけを発生させる場合があります。
- ⑩ 予め、標準目砂骨ローラーのセブンスSS塗付け模様は、仕上げ方向を打ち合わせてください。
- ⑪ セブンスSS中塗りを縦・横目地モルタルに沿い、狭い面積ずつ塗り継ぎ、糸引きや、ローラー運びが重くなったら塗装を止め、塗膜の乾燥硬化後に塗り増ししてください。塗膜表面をざらざらに荒らし、気泡混入させ塗膜白ぼけの要因となります。
- ⑫ タイル面が指触で熱い場合、セブンスSS中塗り塗付時の乾きが早くなり、不具合を発生し易くなりますので注意してください。  
セブンスストップは、1 回目塗装後表面が乾燥しましたら、指触確認し、追いかけて 2 回目を塗装してください。(2 回目を翌日塗付すると、リフティングする場合があります。)

## セブンS (SS-Y工法)標準工法 施工要領

### ●はじめに

セブンSシリーズは、透明仕上げの為、別材料を塗装したものや、汚れたローラー、ハンドル、攪拌棒等は使用しないでください。

### 1) 下塗り

- ① 下地調整が十分行われていることを確認後、下塗り工程を行ってください。
- ② セブンSシーラーは、基剤/硬化剤を 13:1。セブンSネオシーラーは、基剤/硬化剤を 11:1.5(重量比)とし無希釈で、ハンドミキサー等で均一に混合してください。
- ③ 中毛ウールローラー塗りにより、塗り残し、塗り継ぎムラの生じないよう均一に所定量塗り付けてください。  
目地モルタル、タイル面の濡れ色が均一にならない部分は、乾燥後、追いかけて塗りし当日中に仕上がりを均一にしてください。
- ④ シーリング材の上に滲み止めとしてセブンファンデクリヤー I を塗っている場合、その上にはセブンSネオシーラー及びセブンSシーラー2回塗りしないでください。

### 2) 中塗り [1回目標準目砂骨ローラー塗り]

- ① 指触確認し、下塗りの乾燥後(3時間以上)中塗りを始めてください。
- ② セブンSSを1~5%(標準3% 重量比)水希釈し、均一に混合する。混合方法は、気泡が混入しないよう低速攪拌機または、攪拌棒などで静かにの字を書くように攪拌してください。  
(通常の高速ハンドミキサーは、泡混入のため使用できません。)
- ③ 標準目砂骨ローラーにセブンSSをたっぷり含ませ、気泡が混入しないように、配り塗り、仕上げ塗りし均一に仕上げる。(予め砂骨模様の仕上げ方向を打ち合わせてください。)  
一度に腕を伸ばし、何度もしごき塗りすると不均一な仕上がりとなり、造膜不足や気泡が入り易くなります。  
又、若干の落し目程度でも、段差により気泡が混入し易くなりますので注意してください。セブンSS 1回塗り面の乾燥硬化(通常3時間以上)後、透明になってから、2回目のセブンSSを中毛ウールローラーで、1回目同様に仕上げる。(斜壁など1kg/m<sup>2</sup>塗り付ける場合は2回目も標準目砂骨ローラー塗りしてください。)

### 3) 上塗り

- ① 中塗りセブンSS塗装翌日以降、乾燥硬化を確認後、上塗り工程に入ってください。
- ② セブンSトップM#30は、基剤/硬化剤を11:1(重量比)とし、基剤、硬化剤を必ず 全量混入し、ハンドミキサー等を使用して均一に混合してください。  
基剤の半艶・艶消では、艶消剤が沈降し缶底や縁に層状態になっている場合もありますので、へら・ハンドミキサー等で缶の縁や底部まで十分混合するよう特に注意してください。(小分けする場合、予め十分に攪拌してから計量し小分けしてください。)  
上記の理由から、少量使用の場合は、3kgセットをご利用ください。
- ③ 中毛ウールローラーにより、塗り残し、塗り継ぎの生じないよう縦・横十字にムラ切りしながら均一に塗り付けます。なお、中塗りも含めて、透明仕上げのため、塗り残し、塗りムラのないよう、十分注意が必要です。  
セブンSトップM#30 1回塗り面の乾燥後(通常2時間以上)、2回目のセブンSトップM#30を中毛ウールローラーで、1回目同様に仕上げてください。(当日2回塗出来る範囲で仕上げる。)
- ④ 上塗材の半艶・艶消では、艶消し材が沈降していることがありますので、ハンドミキサーで十分 攪拌し、塗棒、へら等で缶のコーナー部の溜まりもキレイに落とし、良く混合してください。
- ⑤ 仕上げ面は、十分乾燥硬化させるよう、24時間以上乾燥養生してください。
- ⑥ セブンSトップM#30塗り付ける際、気温が高く糸引きする場合や、気温が低く泡含みする場合には、「セブンSトップM#30専用シンナー」で0~5%程度希釈、均一に混合し塗装してください。
- ⑦ セブンSSの中塗り層は、透明な塗膜のため、上塗りの際、塗り残しが発生しやすいので必ず2回塗りをしてください。  
●セブンSトップM#30の塗り残し、カスレ部分では、中に塵埃や汚れを呼び黒く汚れてきます。

### 4) 低汚染仕上げ(吹付け) 上塗りの翌日以降に吹付け塗装する。

- ① 吹付け(温風低圧塗装機/エアスプレーガン等)で縦横十字に均一に塗り付ける。
- ② 塗り残し、塗りムラのないよう、0.03~0.05(kg/m<sup>2</sup>)程度を1回吹きしてください。
- ③ 使用機器は、使用后、アルコール等で洗浄してください。  
●注意:セブンヨゴレガードをローラーで塗装すると、はじき、液垂れによる白筋、ムラ等が発生し易いことから不向きです。

## 施工全般における注意事項

「セブンS」を斜壁面や手摺天端面などに施工した場合、垂直面と比べ、日射角度からタイル表面温度の高低差が大きく、平場面のように降雨の滞留時間も長く、塵埃なども堆積し易く不具合進行が速いことから毎年1度の点検と、不具合部分の補修、更に、5～7年程度でのトップコート塗り増しをご提案いたします。

### 1. 気象条件

#### ① 気温変動での注意

低温(5℃以下)の場合、樹脂の乾燥硬化に支障をきたす場合があるため施工を避けてください。

高温(気温 35℃以上、躯体温度 30℃以上)、及び湿度 80%RH以上の場合、塗膜乾燥、ローラー作業性及び仕上げ性に支障をきたす場合がありますので十分注意してください。

#### ② 降雨、降雪の恐れがあるときは、施工を避けてください。

水性セブンSシーラー I 及び、中塗りセブン SS、水性セブン S トップ施工後一度透明になっても、降雨が当たると吸水し塗膜の白濁、透明乾燥を繰り返す場合があります。冬場から春先に掛け、降雨の心配な場合には予め、軒養生などをして頂くことをお勧めします。

#### ③ 風速 5m/sec以上のときは、塗材の飛散被害・塗付けムラ等の支障をきたすので、十分風養生対策を行うか施工を避けてください。

#### ④ 塗付け途中、又は乾燥途中に急に雨が降ってきたときは、少なくとも塗膜が乾燥するまで、天幕などで覆って流出しないようにしてください。

### 2. 下地ごしらえ

#### ① タイル仕上げ面又はコンクリート面に、不良箇所があれば、事前に十分に補修を行ってください。

#### ② タイル目地を注入材やシーリング材等で補修してある場合は、目地の色が不均一となるので、予め管理者に了解を得てください。

### 3. 塗装の注意

#### ① セブンSシーラーや、セブンSネオシーラーを塗装すると、目地が濡れ色で濃くなるので、予め、発注者に承認を受けるようにしてください。

又、濡れ色で濃い部分と、目地モルタル色のムラに仕上がった場合は、目地の劣化が進行している場合が考えられるので、セブンSシーラーを再度塗装し、濡れ色を均一にしてください。

#### ② セブンSS(主材)に水道水を入れ攪拌する場合、高速回転の機械を使用すると気泡が混入して抜けませんので低速ハンドミキサー又は攪拌棒で気泡を混入させないよう静かに攪拌してください。

#### ③ タイル目地や、タイルにひび割れが発生している場合は、セブンSシーラー塗装後、セブンSS(中塗り)をひび割れ部に 0.5kg/m<sup>2</sup>以上、ハケ又は、ゴムへら、ローラーで増塗りを行い、乾燥後主材塗り工程に入ってください。

#### ④ 各工程の塗材塗装後すぐに塗面を養生シート等で密閉すると、養生シートと塗膜が接着し剥がれなくなることがあるので、養生シート等で密閉しないように注意してください。

(逆養生が不要となる 手順を考えてください。)

#### ⑤ セブンSシーラー、セブンSネオシーラー、セブンSトップM#30 は溶剤で引火性です。臭気等を発生させるため近隣周囲への配慮を十分注意し施工してください。

#### ⑥ 居室内で使用する場合、塗料扱い時、塗装時には、通気・換気を十分に行ってください。

### 4. その他(保管等)

#### ① 水性セブンSシーラー I、セブンSS、水性セブンSトップ、セブンヨゴレガードは、5℃以上の場所で保管してください。

#### ② 3. 塗装の注意⑤⑥ 及び 施工前にSDSを確認してください。

#### ③ 材料は、風雨・直射日光を避け、必ず冷暗所で保管してください。

使用材料一覧表

□ 荷 姿

製 品 名	容 量	荷 姿	備 考
2液型アクリルシリコン樹脂 (強溶剤 標準型) セブンSシーラー	14kg セット	石油缶	基剤:硬化剤 13:1
	4kg セット	石油缶	基剤:硬化剤 3.72:0.28
2液型アクリルシリコン樹脂 (弱溶剤・白濁抑制タイプ) セブンSネオシーラー	12.5kg セット	石油缶	基剤:硬化剤 11:1.5
	3.13kg セット	石油缶	基剤:硬化剤 2.75:0.38
アクリルシリコン樹脂エマルジョン セブンSS	14kg 4kg	石油缶	水性1液中塗り
2液型アクリルシリコン樹脂 (弱溶剤) セブンストップM#30 艶有・半艶・艶消 ※	12kg セット	石油缶	基剤:硬化剤 11:1
	3kg セット	石油缶	基剤:硬化剤 2.75:0.25
セブンストップM#30 シンナー	16L 4L	石油缶	希釈用シンナー
セブンヨゴレガード	4L	ポリ容器	防汚コーティング
セブנקリーナー	4L	ポリ容器	洗浄剤
セブンファンデクリヤー I	1kg	角缶	シーリング材しみ止め プライマー

※光沢の低い仕上げは、「艶消」もご選択いただけますが、「半艶」を推奨しています。



東京都新宿区西新宿 7-8-13 栗原ビル 3 階  
 TEL 03(3366)2616 FAX 03(3366)2619  
 e-mail kimura@seven-chemical.co.jp  
 e-mail kitajima@seven-chemical.co.jp